



平成 29 年 2 月 10 日

各 位

会社名 株式会社 京都ホテル
代表者名 代表取締役社長 福永 法弘
(コード 9723 東証第二部)
問合せ先 取締役経理部長 西川 治彦
(TEL 075-211-5111)

通期業績予想値と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 28 年 2 月 15 日に公表しました、平成 28 年 12 月期（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）の通期業績予想値と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、特別損失の計上についても、併せてお知らせいたします。

記

1. 通期業績予想値と実績値との差異について

平成 28 年 12 月期通期個別業績予想の修正（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日） (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,450	440	150	160	14 円 51 銭
当期実績値 (B)	10,707	613	339	261	23 円 68 銭
増減額 (B - A)	257	173	189	101	—
増減率 (%)	2.5	39.3	126.0	63.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	10,765	561	168	△278	△26 円 73 銭

(修正の理由)

平成 28 年度中に収益性の低い館外店舗を閉店したことにより、売上高の大幅な減少が見込まれておりましたが、宿泊・宴会部門を中心に好調に推移したことにより所期の予測を上回りました。合わせて、収益性の高い部門の売上が伸びたことで、営業利益・経常利益・当期純利益は所期の予想を上回ることになりました。

2. 特別損失の計上について

- ① ホテル内の改装工事等に伴い、固定資産除却損を 40 百万円計上しております。
- ② 「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、固定資産の減損処理を実施し、49 百万円を特別損失として計上しております。
- ③ シンジケートローン契約の更新時に、更新時期ではない別のシンジケートローン契約を合算してリファイナンスを実施したことにより、中途解約損 29 百万円を特別損失として計上しております。

これらにより上記を含む特別損失は合計 127 百万円となりました。

上記の特別損失は、本日付にて公表いたしました「平成 28 年 12 月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」に反映しております。

以 上